

幼児における美術館見学

ーワークシート作成の試みー

開 仁志*・長谷川総一郎

(2004年8月31日受理)

An Infant's Activity in Art Museum

ーA Try at Making a Work Sheetー

HIRAKI Hitoshi*, HASEGAWA Soichiro

キーワード：幼児，美術館，ワークシート，連携

Key words : infant, art museum, work sheet, coraboration

はじめに

幼児における美術館見学の実践を考察した先行研究を見てみると、岡山県倉敷市立老松幼稚園において、幼稚園の近くにある大原美術館を見学して、「本物との出会い」をする大切さを実感し、「地域の教育力」を生かした事例⁽¹⁾がある。

また、栗栖宣博が、幼稚園における博物館、美術館見学の実態調査を行った事例⁽²⁾が見られた。それによると、動物園、水族館を見学した幼児は、7、8割であるが、博物館、美術館は2割程度しかなかったことが明らかになっている。さらに、幼児の博物館利用における注意点についてまとめてある。「博物館は面白い、楽しいところ」というイメージをつくるのが、生涯にわたり影響を与えることが指摘されている。

さらに、茨城大学教育学部附属幼稚園と茨城県近代美術館の連携による活動⁽³⁾がある。そこでは、「地域の日」を年に5、6回設け、クラスの枠を越え活動する6つのグループをつくった。その中の一つに「身近にアート」のグループがあり、茨城県近代美術館を訪れ、学芸員や美術館に親しみをもつ活動を行っている。

これらの先行研究を踏まえ、幼児が美術館を見学する本学教育学部附属幼稚園（以下幼稚園）の実践を通して、考察してみたい。

1 幼児における美術館見学の意義

(1) 欧米諸国に後れをとった日本の美術館事情

大英博物館の創立は1753年。ルーブル美術館は1821年。カイロ、カルカッタも含め有名美術館の多くは江戸期に開設されていた。それらは貴族の美術品の市民への公開や市民による博物資料の寄贈を設立動機とす

る。アメリカの美術館もそうした延長線上にあり、今日は運営資金の多くは民間の援助に依っている。また、欧米の美術館では子どもや学校教師のためのプログラムが充実していることも特長である。

日本は1872年の文部省博物館を事始とする。維新政府直轄の施策が背景であるが、美術館が市民に身近になるのは戦後のことである。1980～90年代、経済成長の波に乗って県立や公立美術館の建設ラッシュが続いた。しかし、行政によるハコモノ優先が目立ち、市民からのボトムアップの運動は見られなかった。

このように日本と欧米における美術館の歴史、設立動機や子どもへの期待度などは相当乖離している実態がある。

美術館のハードや計画のトップダウンが先行してきた日本でもソフト重視や利用者本位の機運が生まれたのは1980年代以降。81、85、87、90年の中教審や臨教審による生涯学習整備の答申、2001年文化芸術振興基本法の施行、2002年学習指導要領改訂による美術館利用の促進などによる。日本ではやっとな美術館の普及や教育の運動が始まったばかりなのである。

軍事力に依存しない平和国家を目指す日本。環境保全や低成長時代に文化の力が果たす国際的役割はますます大きくなろう。幼児期から美術館に行く習慣を身につけることは未来を見据えた日本の国家的課題の一つである。

(2) 美術館利用は幼児期から

子どもの時の体験はその後の人生の行動における一つの指標となる。小学校の頃まで遊んだ仲間や風景は故郷の代名詞である。ピアノ練習を仮に中学生になってから止めてしまったとしても、西洋音楽という心豊かな文化的ベースを持ち得たことになる。同様に子ど

* 富山大学教育学部附属幼稚園

もの時に美術館に行っていないと大人になっても行くというモチベーションは生まれにくい。

小学校からと言わず幼児から美術館に行く習慣を身につけたい。親子そろって外出やレジャーに出かけることのできる年齢は、幼児期の子どもをもった頃の家族から始まり、中学校に入るか入らないかの年齢までと限られているように思える。その家族は外食、映画、ショッピングには行くが、美術館に行くという発想は生じたいという現実がある。

そこで、幼稚園の教育計画には年1回は美術館見学の機会をもちたい。これによって家族の美術館見学のきっかけが醸成できる。幼稚園では美術館見学実施後、保護者アンケートを実施した。これによると多くの家庭で美術館のことが食事中的話題になったという。

幼稚園では、美術館見学を保護者にも勧めた。すると、親子で、美術館見学へ行く姿も見られるようになった。保護者を通して美術館の楽しさが家庭に伝達されることの役割も余りにも大きいものがある。

(3) ワークシートは日本の教育風土に適合している

海外の美術館に行くドーセンツ（教育系スタッフ）や学校教師が作品の前に座った子どもと相互トークをやっている場面に出会う。日本では少ない光景なので、子どもの美術館利用促進や専門スタッフ養成の良い事例として取り上げられる。しかし、これは日本の文化や教育の風土には馴染まないものがある。一つは、靴履きの床に座るという行為。畳文化の日本人には座り難い。二つはトークするというオーラルなパフォーマンスは日本のこれまでの教育風土では苦手な行為。シャイな日本の学校教師にとっても美術館という公衆の面前で子どもたちと堂々と議論をするにはもう少し時間がかかりそうだ。

一方、ワークシートは基本的には1人学習の教材である。教師による事前のシート作成は難儀だが、いったん作成してしまえば子どもにも教師にも公開のパフォーマンスは不要である。

美術館のワークシートは鑑賞を支援するツールに過ぎない。したがって鑑賞に慣れた人には不要となる。しかし、作品は「見る人の感性が重要なので言葉は不要」という美術館関係者でも作品については膨大な文章表現に依存している。言葉は幼児にとっても人間のコミュニケーションの重要な媒体である。ワークシートは両刃の剣であることを承知の上で、作成や使用すれば、ビギナー向けの鑑賞にはこんな便利なツールは他に無い。

(4) 幼稚園教育要領や学習指導要領の視点から

幼稚園教育要領第1章総説に、第1節 幼稚園教育の基本として、「幼稚園教育は、一中略一環境を通して行うものであることを基本とする」⁽⁴⁾とある。さら

に、第2章 ねらい及び内容の「環境」の項目で、内容(10)「生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。」⁽⁵⁾と明示されている。また、第3章 指導計画 第2節 一般的な留意事項 6 家庭や地域社会との連携(7)では、「幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。その際、地域の自然、人材、行事や公共施設などを積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫すること。」⁽⁶⁾とされている。

さらに、小学校学習指導要領では、第2章 各教科第7節 図画工作における第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い2の(6)で、「各学年の『B鑑賞』の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用すること」⁽⁷⁾となっている。中学校学習指導要領では、第2章 各教科第6節 美術における第3 指導計画の作成と内容の取り扱い2の(5)で、「各学年の『B鑑賞』の題材については、日本や諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産などについても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。」⁽⁸⁾となっている。

幼稚園教育要領では、公共施設の活用、小学校・中学校学習指導要領では美術館の利用・活用が明示されていることから、幼稚園から小学校、中学校への成長を見通し、幼児の美術館見学を計画した。そして、幼稚園教育要領に書かれてあるような地域社会にある公共施設として、富山大学教育学部附属幼稚園では、幼児が歩いていける範囲にある富山県水墨美術館を見学する実践を試みた。

幼稚園独自のねらいと内容は、以下のように考えた。
ねらい ○ 美術館の建物や作品に興味をもち、美術館に行く習慣のきっかけをつくる。

内容 ・ 美術館の建物や作品を見て、美しさやおもしろさを感じる。
・ 美術館利用のマナーを理解する。

幼児の美術館見学の助けとなるように、ワークシートを準備して、見学に臨んだ。この研究では、幼児が美術館見学をする上で、ワークシートの活用がどのようになされたらよいかをワークシートの解答、幼児への事後感想、保護者への事後アンケートなどから明らかにしたい。

<注(4)の傍線は、全て筆者>

2 目的

(1) 幼児のワークシートにおける美術作品への反応率（設問への書き込みの有無）、正解率（設問に対して

幼児における美術館見学

- 正解が書いてあるか)からその有効性を検討する
 (2) ワークシートの構成や設問内容について吟味する
 (3) ワークシート活用における保育者の援助を探る
 (4) 美術館見学における美術館、保護者、大学、幼稚園の連携のあり方を探る

3 調査対象

- ・富山大学教育学部附属幼稚園年長児
- ・平成11年度 11月10日 45名
(Aクラス 21名 Bクラス 24名)
- ・平成12年度 11月 7日 56名
(Aクラス 28名 Bクラス 28名)
- ・平成13年度 11月14日 54名
(Aクラス 26名 Bクラス 28名)
- ・平成14年度 7月3日 Bクラス 27名
7月5日 Aクラス 27名

4 調査方法

- (1) 美術館を見学する際に使用したワークシートを、幼児が記入した後回収する(平成11年から14年度)
 (2) 美術館見学の後、保育者が幼児に口頭で感想を聞き、記録する(平成12, 13年度)
 (3) 美術館見学の後、保護者にアンケートをとり、回収する(平成14年度)

5 ワークシート反応率と正解率から有効性を探る

- (1) 幼児のワークシートの反応率について

表1において、設問全体で平均97.1%の反応率を示

し、幼児は、ワークシートに対して高い反応を示すことが分かる。その中で、無回答の多かった設問を見ると、設問⑧の好きな絵を見つけることができなかった幼児が14名、14.2%いたことが分かる。好きな絵を見つけるといった自分の価値判断を示すような設問に就けることに困難を覚える幼児の存在が推測される。あるいは、幼児が他のことに興味をもち、書き忘れたということも考えられるが、判定は難しい。

- (2) 幼児のワークシートの正解率について

表1を見ると、設問④の絵を見てクイズに答える(金太郎の絵の後ろにいるのは誰かなという問、答えは熊)では、正解率が55.4%と他の設問に比べて極端に低いことが分かる。この設問をクラス別に正解率で見ても、表2である。Aクラスが不正解1名に対して、Bクラスは23名、クラス中82.1%が不正解だったことが分かる。これは、幼児が絵をあまり見ないでワークシートに答えを記入してしまったことによると思われる。設問④のBクラスの解答を抜かしたものが表3である。すると、全体的に見て平均正解率は、93.4%であることが分かる。幼児は、おおむねワークシートに書いてある設問の意味を理解して、正解を導き出していることが分かる。しかし、不正解が多かったのは、設問⑥絵を見つけて、絵の番号を書く設問と設問⑦のふきだしにセリフを入れる活動である。設問

表2 設問④のクラス別正解率

	正解人数 (%)	不正解人数 (%)	無回答人数 (%)	合計人数 (人)
Aクラス	26(92.8)	1(3.6)	1(3.6)	28
Bクラス	5(17.9)	23(82.1)	0(0)	28
計	31(55.3)	24(42.9)	1(1.8)	56

表1 設問ごとの正解、反応率

	対象設問	合計人数 (人)	正解人数 (%)	不正解、読みとり不能人数 (%)	無回答人数 (%)	反応率 (%)
①数を数える	H11P4・45名, H12P1・56名, H13P1・54名	155	150(96.8)	4(2.6)	1(0.6)	99.4
②動物、生き物の名前を記入する	H11P3・45名, H12P2・56名, H13P2・54名, H14P1・54名	209	205(98.1)	3(1.4)	1(0.5)	99.5
③不足しているものを記入する	H12P6・56名, H13P3・54名	110	105(95.5)	4(3.6)	1(0.9)	99.1
④絵を見てクイズに答える	H12P3・56名	56	31(55.4)	24(42.9)	1(1.7)	98.3
⑤絵を見つけたら○をつける	H12P4・56名, H12P5・56名, H13P4・54名, H13P5・54名, H14P2・54名	注①274	269(98.2)	4(1.5)	1(0.3)	99.7
⑥絵を見つけて、絵の番号を書く	H11P1・45名×6問	注②270	229(84.8)	24(8.9)	17(6.3)	93.7
⑦ふきだしにセリフを入れる	H13P6・54名	54	49(90.7)	4(7.4)	1(1.9)	98.1
⑧好きな絵を見つける	H11P5・45名, H14P2・54名	99	83(83.8)	2(2.0)	14(14.2)	85.8
⑨好きな模様を描いて絵を完成する	H11P2・45名	45	45(100)	0(0)	0(0)	100
平均 (%)			89.3	7.8	2.9	97.1

注①注②問題数×人数

表3 表1から設問④Bクラス解答を抜かした正解、反応率

	対象設問	合計人数 (人)	正解人数 (%)	不正解、読みとり不能 人数 (%)	無回答人数 (%)	反応率 (%)
①数を数える	H11P4・45名, H12P1・56名, H13P1・54名	155	150(96.8)	4(2.6)	1(0.6)	99.4
②動物, 生き物の名前を記入する	H11P3・45名, H12P2・56名, H13P2・54名, H14P1・54名	209	205(98.1)	3(1.4)	1(0.5)	99.5
③不足しているものを記入する	H12P6・56名, H13P3・54名	110	105(95.5)	4(3.6)	1(0.9)	99.1
④絵を見てクイズに答える	H12P3・56名	56	26(92.8)	1(3.6)	1(3.6)	96.4
⑤絵を見つけたら○をつける	H12P4・56名, H12P5・56名, H13P4・54名, H13P5・54名, H14P2・54名	注①274	269(98.2)	4(1.5)	1(0.3)	99.7
⑥絵を見つけて, 絵の番号を書く	H11P1・45名×6問	注②270	229(84.8)	24(8.9)	17(6.3)	93.7
⑦ふきだしにセリフを入れる	H13P6・54名	54	49(90.7)	4(7.4)	1(1.9)	98.1
⑧好きな絵を見つける	H11P5・45名, H14P2・54名	99	83(83.8)	2(2.0)	14(14.2)	85.8
⑨好きな模様を描いて絵を完成する	H11P2・45名	45	45(100)	0(0)	0(0)	100
平均 (%)			93.4	3.4	3.2	96.8

⑥では8.9%, 設問⑦では7.4%が不正解である。これは、幼児の発達段階から考え、数字を記入したり、文章を書いたりすることが難しかったことが推測される。

以上のように平均反応率97.1%, 平均正解率93.4%という結果から、幼稚園の実践では幼児がワークシートを活用する有効性が示されているのではないかと考える。

6 ワークシートの構成や設問内容についての検討

(1) ワークシートの構成の変遷から見る改善点

平成11年度は、初めての美術館見学を行った。ワークシートは、B6の大きさで、上質紙を使い、表紙、裏表紙を入れて、8ページ構成となっている。書き込み用の鉛筆にはキャップをつけてポケットに入れて持ち歩くことにした。設問数は、5である。書き込む問題数は、13である。

平成12年度は、ワークシートの大きさを幼児が見やすいようにB5に拡大し、厚紙の裏表に上質紙を貼り、2ページ構成とした。首からかけるひもは、事前に幼児一人一人が三つ編みをしたものであり、ワークシートの台紙の厚紙の左右につける。このことによって、首にかけたままで回転させると、そのまま裏の設問ができるようになる。鉛筆はキャップをつけ、ゴムでワークシートの厚紙につけた。このことで、幼児がガラスや床などにワークシートを置いて書き込まなくてもよいように改善された。

美術館から許可を得て、当該作品を図録からスキャナで読みとり、ワークシートをWord制作するようになった。このことで、幼児が、カラーで美術館の絵を見ることができ、ワークシートの設問の内容が広がっ

た。ワークシートに使用した絵には必ず、作者名と作品名をつけるようにして幼児の理解を助けるようにした。

設問数は、7であり、書き込む問題数は、9である。

平成13年度は、平成12年度のワークシートをもとに作成した。絵をじっくり見ることを促すために、絵の女性の姿を見てから聞こえてくる言葉を書く問題を設けた。作品数が多く、本や色紙など、いろんな大きさ、種類のものであったので、子どもが興味を持ちそうなもの（テーマが身近なもの、色合いがはっきりしているもの）を学芸員と一緒に選び、問題を作った。設問数は7であり、書き込む問題数は、9である。

平成14年度は、ワークシートをもとに幼児が自分で美術館を見学する見通しをもつことができるように構成してある。3つの約束を書き、ポイント1から矢印にそって指示通り動けば、美術館を一通り見学できるようになっている。この年は、ワークシートに書き込む活動を今までの半分の量に減らし、学芸員のギャラリートークの時間を増やした。設問数は6で、書き込む問題数は、5である。

以上のワークシートの構成の変遷をまとめると、以下ようになる。

美術館という公共の場で幼児がワークシートを使って活動することを考えて、ワークシート作成での改善点がいくつか挙げられる。第1に、書き込む道具は、消すことのできるように鉛筆にしてキャップをつけたこと。第2に、ガラスなどを傷つけず落ち着いて書くための土台（厚紙）を用意したこと。第3に、鉛筆を落とさないようにゴムでつけたこと（ゴムだと、伸び縮みして、書くときに柔軟性がある）。

幼児の理解を助ける観点から、第1に、当該作品を図録からスキャナで読みとり、視覚に訴えていること、

幼児における美術館見学

第2に、ワークシートに使用した絵には必ず作者名と作品名をつけること、第3に、幼児が見やすいようにB6からB5に拡大し、ページ数も2ページに減らしたこと。

幼児の活動の動線を考えて、第1にワークシートに活動の流れを示したこと、第2に、ワークシートに書き込む問題を減らし、学芸員のギャラリートークの時間を多く取ったこと。

平成11年度の初めてのワークシートをもとにして、12年度にワークシートを大幅に改正し、その後のワークシートの原型となった。

表4 ワークシートの構成の変遷

	大 き さ	台 紙	ペ ー ジ 数	鉛 筆	図 録	製 作	作 品 名 作 者 名	設 問 数	問 題 数
11年度	B6	なし	8	ポケット	なし	手書き	なし	5	13
12年度	B5	あり	2	ゴムでつける	スキャナ	Word	あり	7	9
13年度	B5	あり	2	ゴムでつける	スキャナ	Word	あり	7	9
14年度	B5	あり	2	ゴムでつける	スキャナ	Word	あり	6	5

(2) 設問内容の検討

平成11年度では、設問⑥絵を見つけて、絵の番号を書く設問の正解率が低いことから、内容的に難しいとわかる。(表1参照)

平成12年度の幼児の事後感想(表5)を見ると、美術館の絵に対する感想を述べた子どもが24人(44.4%)、ワークシートでの活動に関する感想が21人(38.9%)であることが分かる。絵に対する感想のうち、8人は、ワークシートに出てくる絵のことを話していた。ワークシートでの活動に関する感想のうち、絵を探す活動が楽しかった幼児が、4人、逆に難しさを感じた幼児が5人、絵を描き込むことが楽しかった幼児が5人、逆に難しさを感じた幼児が、6人いた。ワークシートに出てくる絵が幼児の記憶に残っていることがわかる。そして、絵を探すことや絵を描き込むことに楽しさを感じる幼児がいる反面、難しさを感じる幼児もいる。しかし、反応率自体は決して悪くないので、難しさを感じながらも内容を理解していると言えよう。

表5 水墨美術館へ行って、思ったこと楽しかったこと
平成12年度

	絵	ワー ク シ ー ト	場 所	学 芸 員	そ の 他	計
男	14	9	2	0	2	27
女	10	12	2	0	3	27
計	24	21	4	0	5	54

平成13年度の幼児の事後感想(表6)を見ると、美術館の絵に対する感想を述べた子どもは36人、ワークシートでの活動に対する感想を述べた子どもが8人だった。絵に対する感想のうち、13人はワークシートに出てくる絵のことを話していた。ここでも、ワークシートに出てくる絵が幼児の記憶に残っていることがわかる。ワークシートでの活動に関する感想のうち、セリフを書くことに難しさを感じた幼児が3人、クイズに答えることが楽しかった幼児が1人、逆に難しさを感じた幼児が1人だった。セリフを書くことに難しさを感じる幼児がいることと、正解率も他の設問に比べて低いことから、内容的に難しいことがわかる。

反応率や正解率が低いもの、事後の感想で難しさを感じているものに関しては、内容の再検討が必要であると考えられる。

表6 水墨美術館へ行って思ったこと、楽しかったこと
平成13年度

	絵	ワー ク シ ー ト	場 所	学 芸 員	そ の 他	計
男	19	4	0	0	3	26
女	17	4	3	0	0	24
計	36	8	3	0	3	50

7 ワークシート活用における保育者の援助

ワークシートの内容について難しさを感じる幼児に気づき、適切な援助を行うことが必要である。表1の設問④で、幼児が絵をあまり見ずにワークシートに記入しているような場合もあるので、幼児に、美術館見学を支援するツールの一つとしてワークシートを位置づけ、ワークシートだけに頼らないことが大切である。保育者の声かけや指示は、ワークシート以上に幼児に対して影響があることを考え、適宜、幼児の様子を見ながら、援助をしていくことが基本となる。

さらに、ワークシートを渡すタイミングについては、幼児が美術館見学の前にワークシートに名前を書いたり、首からかけるひもをつけたりすることで、美術館見学への期待感を高めることができると考えられる。当日は、学芸員の話聞く場合などは、ワークシートがあるとかえって気がとられて集中力が途切れてしまいがちなので、実際にワークシートで活動をする時間に渡すようにすると効果的であった。

8 美術館・家庭・幼稚園・大学の連携について

(1) 事前

ワークシート作成においては、事前に、大学教員、学芸員と打ち合わせを行った。学芸員と一緒に展示品

を見て、保育者自身が作品に対して理解を深めておくことや、幼稚園側からのねらいを学芸員にしっかり伝えることなどが大切になる。美術館の企画展を考慮して、幼児にとって興味をもつことができる内容を検討し、互いの年間計画と照らし合わせて、日程を決めることも必要である。平成14年度には学芸員が見学の前に幼稚園を訪れ、美術館の簡単なガイダンスを行った。幼児は、話を真剣に聞いている様子であり、質問をする幼児もたくさんいた。幼児の期待感はとても高まり、当日を心待ちにする様子が見られた。ワークシートの中に学芸員との触れ合いが書かれてあったことも、親しみを持つ一因となったであろう。

(2) 当日

当日、ワークシートに学芸員のギャラリートークのコーナー（絵本の読み聞かせ）を設け、一層親しみをもつことができた。学芸員も事前に幼稚園を訪問していたことで、幼児の様子をイメージでき、わかりやすい言葉で話してくれた。大学からは、本研究のため、院生2名が、ビデオをとり、幼児の様子を記録した。将来保育者を目指す学部生1名が、保育ボランティアで幼児の美術館見学の補助をした。

(3) 事後

後日、幼児に感想を聞いて学芸員に評価を伝えることも欠かさなかった。大学には、幼児の記録を送り、考察を依頼した。4年間、美術館に通い続けている実績が、美術館と幼稚園、大学の結びつきをつくっていくことにつながったと言えるであろう。

保護者に対しては、美術館での幼児の様子を学年便りで毎回知らせた。平成14年度は、保護者にアンケートをとった。美術館に行く前の子どもの様子（表7）や、行った後の幼児の様子（表8）を保護者がどうとらえているか知るよい資料となった。保護者は、幼児における美術館見学の影響（表9）について、「美術館への楽しみ」を挙げたのが47名で一番多かった。次に、「絵の見方」を挙げたのが27名であった。ワークシートが、幼児に及ぼす影響は、保護者にとって2番目に多い意見の「絵の見方へ働きかける側面」であると思われる。保護者がとらえる美術館見学への期待を受け、次からの実践に生かしたい。

以上見てきたように、事前に美術館の学芸員との打ち合わせを入念にして、ねらいを共通理解し学芸員と保育者の間にパートナーシップを形成して幼児の保育にあたること、保護者へ幼児の姿を便りで知らせ、保護者にも美術館へ興味をもてるように促すこと、どのように美術館見学を進めるか、研究的な視点をもって考察したり、保育者を目指す学生に保育の機会を与えたりすること等、学芸員、保護者、保育者、大学教員をつなぐようにコーディネートする力が保育者に求め

られると言えよう。

表7 美術館に行く前の子どもの様子

項	目	人数
a	美術館に行くのを楽しみにしていた。	39
b	学芸員さんが来園されたことを話していた。	24
c	カッパの話をしていました。	35
d	美術館の話はしなかった。	5
e	その他	4

表8 美術館に行った後の子どもの様子

項	目	人数
a	また、行きたいと言っていた。	23
b	学芸員さんのことを話していた。	15
c	美術館の建物や庭のことを話していた。	16
d	美術館の場所のことを話していた。	16
e	美術館で見た絵のことを話していた。	37
f	特に何も話さなかった。	4
g	その他	4

表9 美術館見学は、子どもにどのような影響を与えるか

項	目	人数
a	美術館への楽しみ	47
b	学芸員への親しみ	15
c	絵の見方	27
d	余暇の過ごし方	4
e	その他	7

9 活動の展開

(1) 幼稚園の立場から

幼稚園では、水墨美術館見学の後、実際に墨と筆を使い、障子紙を部屋の端から端まで敷き、クラス全員で絵を描いた。美術館に飾ってある絵の中で幼児が一番興味を示した河童の絵を一人一人自由に描いた。幼児は、クレヨンや絵の具と違い濃淡だけで描くことにいつもとは違った新鮮さをもち楽しんで描いている様子であった。完成した絵は、附属幼稚園で行う「アートプラザ」（絵や工作の展覧会）の中で展示し、保護者や附属小学校、附属中学校、附属養護学校、地域の方などに見てもらった。

(2) 美術館の立場から

水墨美術館では、附属幼稚園児が一番興味をもった河童をイメージキャラクターとして、ガイドブックを作成した。さらに、平成14年度には、子どもを対象とした水墨画コンクールも行われ、好評を博した。

おわりに

本実践を通して明らかになってきたことを最後に述べたい。まず、ワークシートの有効性についてである。幼

幼児における美術館見学

児がワークシートを美術館見学の前に作成することで、「いつ美術館に行くの」「この河童の絵はおもしろそう」などといった言葉も聞かれ、見学に対して期待感をもつ様子が見られた。さらに、幼稚園の幼児については、高い反応率、正解率を示し、感想にもワークシートの内容に関するものが多く出ている。美術館は一般的に展示品が多くあるので、幼児が、漠然と見るのではなく、保育者が注目してほしいと思うポイントをしっかり押さえる点で効果があると言えそうである。しかし、反面、幼児が絵を自由に見ることを妨げているとも言えるだろう。ワークシートのメリット、デメリットをふまえた上で、ねらいは、ワークシートを完成させることではなく、「美術館の建物や作品に興味をもち、美術館に行く習慣のきっかけをつくる。」ことであるということをお忘れないうで、美術館、家庭、幼稚園、大学が連携して援助していくことが大切である。

実践者

平成11年度

学芸員：渡辺 希利子

大 学：長谷川 総一郎

保育者：横山 洋子，開 仁志，岩田 郁子

平成12年度

学芸員：鈴木 博喬

大 学：長谷川 総一郎

保育者：廣田 仁美，開 仁志，岩田 郁子

平成13年度

学芸員：八木 宏昌

大 学：長谷川 総一郎

保育者：廣田 仁美，河崎 美香，宮崎 真由美

平成14年度

学芸員：八木 宏昌

大 学：長谷川 総一郎

保育者：石倉 卓子，開 仁志，相山 由佳

大学院生：松田 真治，堀内 美里

学部生：清水 香織

【注】

- (1) 片山 厚子 1997 「ふるさとに心のやすらぎと誇りをもてる子に—地域の自然や文化を生かして—」全国国公立幼稚園長会研究集録，平成8年度版，37-44頁
- (2) 大堀 哲編著 1997 『教師のための博物館の効果的利用法』，初版，東京堂出版，141-151頁
- (3) 茨城大学教育学部附属幼稚園 2000 「心豊かな生活を展開するために—道徳性の面から—」研究紀要，16，33-35頁
- (4) 文部省 1999 『幼稚園教育要領解説』，初版，フレーベル館，20頁
- (5) 同上，102頁
- (6) 同上，170頁
- (7) 文部省 1998 『小学校学習指導要領』，初版，財務省印刷局，76頁
- (8) 文部省 1998 『中学校学習指導要領』，初版，財務省印刷局，69頁

【参考文献】

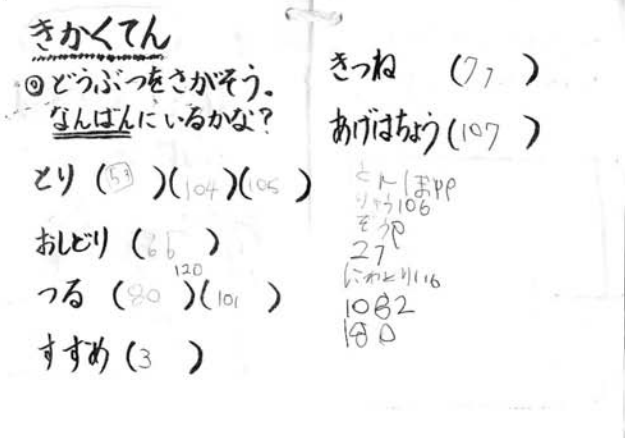
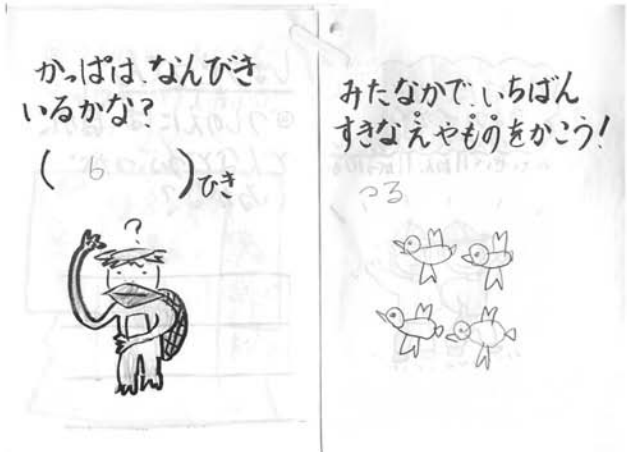
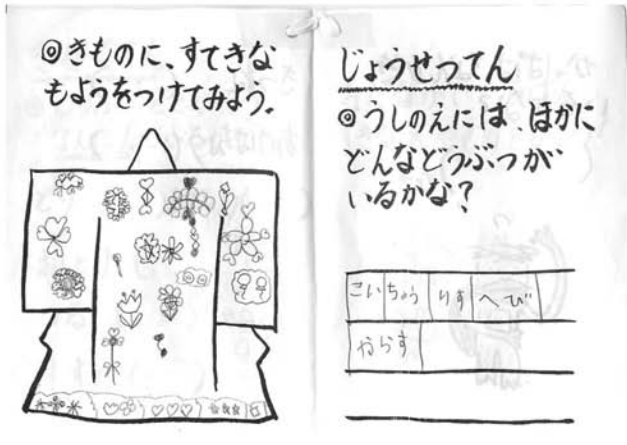
- (1) 文部省 1999 『幼稚園教育要領解説』，初版，フレーベル館
- (2) 文部省 1998 『小学校学習指導要領』，初版，財務省印刷局
- (3) 文部省 1998 『中学校学習指導要領』，初版，財務省印刷局
- (4) 片山 厚子 1997 「ふるさとに心のやすらぎと誇りをもてる子に—地域の自然や文化を生かして—」全国国立幼稚園長会，平成8年度版
- (5) 大堀 哲編著 1997 『教師のための博物館の効果的利用法』，初版，東京堂出版
- (6) 茨城大学教育学部附属幼稚園 2000 「心豊かな生活を展開するために—道徳性の面から—」研究紀要，16

謝辞

この研究をすすめるにあたり、茨城大学教育学部助教 授島田裕之様、茨城県近代美術館学芸員山本哲士様、茨城大学教育学部附属幼稚園教職員様及び、富山大学教育学部附属幼稚園前園長原稔様、前副園長常川允子様、園長生田貞子様、副園長吉川真利子様始め教職員の皆様にご協力いただきありがとうございました。

【参考資料】

平成11年度版ワークシート
1~5頁





平成12年度版ワークシート(表, 裏)

とやまけんすいぼくしじゅつかんたんけんシート
 2め ぐみ なまえ

(じょうまつてんじしつ) (きかくてんじしつ1) 6だい うきよよし めいひんてん

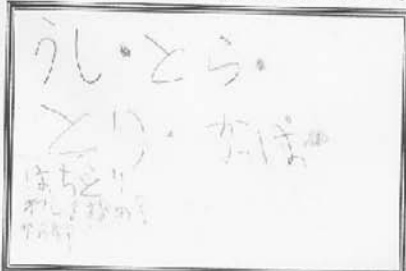
ほいんと1 さいとう ねるゆき「こゆきようじんえんかつぱ」 **ほいんと2** とりい きよなが「にいゆをひくさんたろう」

かつぱは たんびき いるかな? **ほいんと3** いぬをついた さんたろうの エの うしろにいるのはだれかな

 (| |) ひき) 


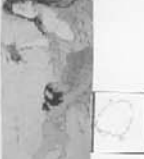
ほいんと4 このえを みつけてみよう! みつけたら しかくのなかに まるをかいてね

このへぎの エの なかには、 どんな どうぶつがいるかな?



すずき にるゆき 「ふたでさんこう」 **ほいんと5** このえを みつけてみよう! みつけたら しかくのなかに まるをかいてね




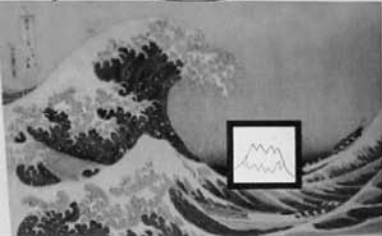
きたがわうたせろ へまんとさんたろう!

(きかくてんじしつ2) **ほいんと6** かつしか ほくさい「ふかく36けい かながわおきなみうら」



とうしゅうさい しゃらく どうしゅうさい しゃらく **ほいんと7** 「ブピンガのき」のいすには なんにん すわれるかな? みんなですわってしゃしん をとろう。

「2だいのめ あらしりゅうぞうの かわかし いしべきんさち」 「だいでうざん どひょういり」

うたがわ ひろしげ **ほいんと8** へいせい12ねん 11がつ7か

「とうとりょうごく ゆうせんのず」


とやまだいがく きょういくがくぶ ふぞくようちえん

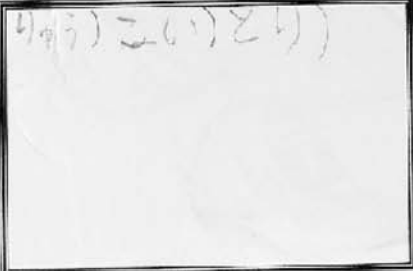
平成13年度版ワークシート (表, 裏)

とやまけんすいぼく じじゅうつかんたんけんシート

うめぐみ なまえ _____

(しょうせつてんじしつ)



ぼいんと1 とみわか てっさい 「しらようす」
 おじさんは なんにん いるかな?
 (5 にん)



ぼいんと2
 このへその えの なかには、どんな いきものがいるかな?


(きかくてんじしつ) さげひき ゆめじ てん

ぼいんと3 「たいしょう ふうぞくす」
 このえには なにかが たりないよ。 たりないものを かきたしてね。



ぼいんと4
 このえを みつけてみよう！みつけたら しかくのなかに まるをかいてね。


「はしまつり」
 

「おきあそび」
 

(きかくてんじしつ2)

このえを みつけてみよう！みつけたら しかくのなかに まるをかいてね。

ぼいんと5
 「あさの ころが・・・」 (はりせんけん) 「たからぶね」
 

「そらとぶ とり」


ぼいんと6
 このひとは なにを いっているのかな。 じぶんできんがえて かいてみよう。

これ で OK

ぼいんと7
 「ピンガの巻」のいすは なんにん すしめるかな？みんなですわってしやしんをとろう。

「よいよい」の巻、11がつ14か
 とやまだいがく きこういくがくふ ふぞくようちえん

平成14年度版ワークシート(表, 裏)

とやまけん すいぼくびじゅつかん たんけんシート

ようこそ ぐみ なまえ


くやくそくしてね>
 * しずかにあるいて けんかくしてね。
 * がくげいんさんの はなしを しずかに きこう。
 * ガラスケースには さわらないでね。

ぽいんと1 ☆ どんなどうぶつが いるかな？
 どうぶつの なまえを かいてみよう。

じょうせつ てんじつ しし、ライオン、ひつじ

ぽいんと2 ☆ なにをしている えかた。よくみてみよう。
 みつけたら、○をかこう。 ☆ がくげいんさんに
 おはなしをしてもらおう。

きかく てんじつ



☆ 大きなえきを みつけよう。
 えの だいめいはり

かはのむらのみつり

ぽいんと3 じょうせつ てんじつ ☆ 「かは あきわたた、をみよう。

ぽいんと4 おちゃしつ ☆ どんなものがあるかな？

ぽいんと5 ていえん (にわ) ☆ においでして びじゅつかんを ゐてみよう。
 やねは どんな かたちかな？

ぽいんと6 えんとらんす ほーる (げんかん)
 ☆ いすは なんのきで つくってあるかな？
ぶらんりの木あぶりが
 ☆ たのしかったことをばなそう。
 ☆ みんなで しやしんをとろう。

おうちのひとと
 目をみてね！

水墨美術館：こどもガイドブック

こどもガイドブック

水墨のひみつ

屏風

いらしゃ〜い

きみは 水墨美術館に来たことがあるかな?

まだまだあなたは知らないひみつがあるよ

たくさん探して美術館と友達になりましょう!

富山県水墨美術館

タテに糸田長いのは「掛軸」、ヨコに大きいのは「屏風」っていうものなんだ。きれいに飾って保存しやすいように工夫されているんだよ。日本では昔からこうやってきれいなものを家に飾って楽しんでたんだね

「なるほど」

まきあげると

屏風は風よけや間仕切りにも使うものだから、うれしい。おりたままとへちゃんこになつて小さくなるんだ。掛軸は糸の回りにきれいな布や紙を買ったもので「床の間に飾るんだ」

「ふーん、うま〜考えてあるんだ」

ささて...ここでクイズです

えー!? クイズ!?

次の作者の名前に間違いがあるからさがして正しい名前にしよう!!

①富岡銅斎

ここで美術館って何?

芸術家が一生懸命こころを込めて作ったものが飾ってあるの! きれいなもの、びっくりするもの、不思議なものなどたくさんあるよ

ひまわりはなぜ美術館に来るんだろう?

それは作品を見て楽しくなったり優しくなったり、勇気が持てたり...こころが元気になる場所だから...

お気に入りの作品の前には立ってごらん

ステキなところがみつかるとよ

ふふふ...

美術館のルール

まもってね!!

他の人のじやまになることはあらいけなひだよ

作品やガラスケースや展示台にさわらないで!

重い荷物やカガはロッカーに預けたらいいよ

大きな声を出したり走ったりさわいだりしないでね

うわー

筆記用具はえんぴつにしてね

携帯電話やポケットゲームの電源は消してね

じゃまたきてね

富山県水墨美術館

〒930-0887 富山市五福777番地
TEL 076-431-3719 FAX 076-431-3720
http://www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm

編集：富山県水墨美術館
編集協力：長谷川純一郎 小森理恵子 船木英明
製作：富山県水墨美術館 ©2000
複製・転載は美術館の許可なく転用・転載しないこと。